

研究活動
前谷 彰

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又 は発表 の年月	発行所、発表雑誌又 は発表学会等の名称	概 要	編者・著者 名(共著の 場合のみ記 入)	該当頁数
(著書)						
(学術論文)						
1. 『法華経』における 〈eka〉の概念	単著	1989. 3 (平成元年3月)	『印度学仏教学研究』37-2 日本印度学仏教学会	『法華経』における数詞〈eka〉の複合語の用例を通して、一乘思想についての新たな側面を見出した。		868-871頁
2. 『法華経』における 〈yāna〉の語をめぐって	単著	1991. 3 (平成3年3月)	『印度学仏教学研究』39-2 日本印度学仏教学会	『法華経』における〈yāna〉の語の複合語と結合する動詞に着目して、法華経独自の一乘思想について考察した。		893-898頁
3. Raghuvamśa 鑑賞 -1.89-1.93をめぐって-	単著	1992. 11 (平成4年11月)	『仏教学会報』16 高野山大学	カーリダーサの詩作である『ラグヴァンシヤ』読解を通して、カーヴィヤ体の読解能力を修得した一成果を報告した。		1-11頁
4. Mātāṅga 族の種族的起源 をめぐって	単著	1993. 12 (平成5年12月)	『密教文化』184 高野山大学	インドのアウトカーストであるチャンダーラとみなされていた Triśaṅku-Mātāṅga 王の種族的起源を究明した。		131-156頁
5. Śārdūlakarṇāvadāna にお ける ṣaḍakṣaravidyā -その後代への変遷形態に ついて-	単著	1994. 3 (平成6年3月)	『密教学研究』26 日本密教学会	『シャールドウーラカルナニアヴァダーナ』に初出する ṣaḍakṣaravidyā が、後代の大乗や密教経典へ継承されていくプロセスを通して、マントラの変遷の一様相について考察した。		31-49頁
6. チャンダーリー・マー タンギーについての解釈-新 たなる視点より-	単著	1995. 2 (平成7年2月)	『高野山大学論叢』 30	インドのアウトカーストの女性として蔑視されて来たチャンダーリー・マータンギーが、タントラの展開に非常に重要な位置を占めていたことを立証した。		31-68頁
7. Ṣaḍakṣaraについて	単著	1995. 3 (平成7年3月)	『印度学仏教学研究』 44-1 日本印度学仏教学会	Ṣaḍakṣaravidyā 中の Ṣaḍakṣara の1つ1つの語義を解明し、それらがナーガ崇拜と深く関わっていることを論じた。		403-407頁
8. 見法と禪定	単著	1996. 9 (平成8年9月)	高野山大学創立百十 周年記念『高野山大学 論文集』	原始仏教聖典に見出される diṭṭhe va dhamme という定型表現と禪定の関わりについて考察した。		217-236頁
9. <i>Divine Revelation in Pali Buddhism</i> に ついて	単著	1996. 12 (平成8年12月)	『仏教学会報』 第20号	Peter Masefieldの著書 "Divine Revelation in Pali Buddhism" の書評論文。		13-24頁
10. 仏教と食生活の関り	単著	1998. 10 (平成10年10月)	『日本仏教学会年 報』第63号	「食」というものが、仏教教理の中で、どのように捉えられているかを、縁起法を中心に考察した。		49-63頁
11. 最澄の著作に見える自 然智の概念	単著	1999. 12 (平成11年12月)	『密教文化』203 密教研究会	『顕戒論』及び『法華秀句』に見出される「自然智」は、インド仏教から展開された svayambhu - jñāna の意味を踏襲したものではなく、最澄独自の概念づけがなされた語句であることを論証した。		21-41頁
12. 『依憑天台集』にお ける「生知」をめぐる問題	単著	2001. 9 (平成13年9月)	『仏教学会報』21	『依憑天台集』における「生知」は、「自然智」と同義に捉えられるべきではないことを主張。		1-19頁
13. 虚空蔵求聞持法と自然 智宗	単著	2000. 12 (平成12年12月)	『高木神元博士古稀 記念論集』 仏教文化の諸相	求聞持法と自然智を結び付けた蘭田香融氏の見解を根本から否定し、自然智宗なる山林修行の一派の存在を否定した。		235-250頁
14. 虚空蔵求聞持法の意義	単著	2001. 2 (平成13年2月)	『高野山大学論叢』 36 (高野山大学)	空海の求聞持法成満時における光と音声の神秘体験が、『即身成仏義』著述の重要な要因となり得たのではないかについて考察。		55-65頁
15. 道慈伝再考	単著	2002. 2	『高野山大学密教	道慈伝を再考することによって、		1-12頁

		(平成14年2月)	文化研究所紀要』 第15号	従来の求聞持法相承系譜を疑問視する見解を打ち出した。	
16. 奈良・平安期における山林修行の意義	単著	2002. 3 (平成14年3月)	『密教学研究』 第34号	奈良・平安期における山林修行の様相とその意義について、新たな視点から分析を加えた。	103-122頁
17. upa-√āsに祈りの概念を読みとれるか	単著	2005. 12 (平成17年12月)	『仏教における祈りの問題』 日本仏教学会編 平楽時書店	ウパニシャッド文献に散見するupa-√qsは「祈り」もしくは「崇拜」の意味概念を持っているが、初期仏教聖典におけるこの語は単に「近くに坐る」や「親近する」等の意味しか持ち得ないという結論を導き出した。	19- 30頁
18. 忍性律師の慈善事業観	単著	2006. 1 (平成18年1月)	『日本仏教学会年報』 第72号	忍性律師は様々な慈善事業を行った高僧としてよく知られているが、彼の後真言律宗が衰退の一途を辿ったのは、彼が兼学兼修における兼学の部分を欠いていたことによるのではにかという見解を打ち出した。	165-175頁
19. ウパニシャッドにおける光の観念	単著	2007. 2 (平成19年2月)	『高野山大学論叢』 第42巻	ウパニシャッド文献における光に關係する用語を精査することによって、ウパニシャッドにおける「梵我一如」の解脱境界は光の現體的体験に他ならないという結論を導き出した。	27- 52頁
20. スピリチュアルケアの将来的展望について	単著	2008. 3 (平成20年3月)	『高野山大学論叢』 巻第43号	スピリチュアルケアの将来的展望について、日本で行われている現行のスピリチュアルケアのシステムを批判し、将来的に日本においては仏教の教えを基軸にしたスピリチュアルケアのシステムを構築することが大切であるという見解を述べた。	21-29頁
21. パラモン教における戒律観	単著	2009. 7 (平成21年7月)	『京都・宗教論叢』 第3号	仏教の戒律に相当するパラモン教における誓戒の特徴を紹介し、仏教の戒律との相違点を明らかにした。	
22. 仏教における死の意味概念	単著	2010 発刊予定 (平成22年)	『日本仏教学会年報』 第74号	仏教において死をどのように捉え、死をいかにして超克するかの問題について考察し、その立場と日本の武士道における死とどのような意味概念の違いがあるかについて論じた。	
(口頭発表)					
1. 『Śārdūlakarṇāvadāna における sadakṣaravidyā』 —その後代への伝承形態を中心として—		1993. (平成5年)	日本密教学会 護国寺		
2. Ṣaḍakṣaraについて		1995. 6 (平成7年6月)	日本印度学仏教学会		
3. 仏教と食生活との関り		1997. 9 (平成9年9月)	日本仏教学会		
4. 奈良・平安期における山林修行の意義		2001. 10 (平成13年10月)	日本密教学会		
5. 自然環境とbhāraの問題		2002. 9 (平成14年9月)	日本仏教学会		
6. upa-√āsに祈りの概念を読みとれるか		2004. 9 (平成16年9月)	日本仏教学会		
7. 忍性律師の慈善事業観		2005. 9 (平成17年9月)	日本仏教学会		
8. パラモン教における戒律観		2008. 7 (平成20年7月)	K-GURS		
9. 仏教における死の意味概念		2009. 9 (平成21年9月)	日本仏教学会		

学会等および社会における主な活動		前谷
1986. 6(昭和61年6月)	日本印度学仏教学会	
1990. 5(平成2年5月)	密教研究会	
1990. 5(平成2年5月)	日本密教学会	
1992. 6(平成4年6月)	日本仏教学会	
1994. 5(平成6年5月)	日本山岳修験学会	
1994. 6(平成6年6月)	密教図像学会	
1995. 4(平成7年4月)	パーリ学仏教文化学会	
1995. 9(平成7年9月)	印度学宗教学会	
2007. 9(平成19年9月)	日本スピリチュアルケア学会 理事・事務局長	
2003. 6(平成15年6月)	講演(和歌山県警本部)『生命倫理と仏教』	
2003. 9～12 (平成15年9月～12月)	毎日文化センター講義	
2004. 1(平成16年1月)	老人大学講演(橋本市民会館)『空海思想とその実践』	
2004. 1～現在に至る (平成16年1月～現在に至る)	毎日文化センター講義	
2004. 6(平成16年6月)	高野山真言宗肥前支所総会 講演『仏教における自利と利他』	
2005. 7(平成17年7月)	高野山大学同窓会和歌山支部総会 講演『仏教におけるめざめの構造』	
2005. 9(平成17年9月)	高野山真言宗備中支所総会 講演『スピリチュアルケアとは何か』	
2006. 5(平成18年5月)	高野山真言宗備中支所寺族婦人会総会 講演『スピリチュアリティの探求』	
2007. 7(平成19年7月)	大阪大学大学院医学研究科保健学専攻科 講演『仏教思想とスピリチュアリティ』	
2007. 8(平成19年8月)	チャブレン大会(於 高野山大学) 講演『仏教とスピリチュアリティの融合論』	
2008. 10(平成20年10月)	北海道青年教師会 講演『仏教におけるめざめと癒しの構造』	
2006. 7～現在に至る (平成18年7月～現在に至る)	中国大連タウン情報誌『Look』(月刊誌)に毎月、俳句・短歌 等の解説文を執筆	
2009. 6(平成21年6月)	北海道青年教師会 講演『仏教における精霊観とアイヌ民族の信仰観』	
2009. 7(平成21年7月)	講演「いのちのみまもり」(於 大阪なんばパークス)	
2009. 12(平成21年12月)	講演「スピリチュアリティのゆるやかな探究」(於 東京KFCホール)	
大学行政への係わり(所属委員会)		
平成13年度 (2001年)	図書選択委員会 生命倫理研究会委員長 自己点検基本事項検討委員会	
平成14年度 (2002年)	自己点検・評価検討委員会 学生部協議会 図書選択委員 密教文化研究所協議会(専従研究所員)	
平成15年度 (2003年)	自己点検・評価検討委員会 FD問題検討会議 学生部協議会 学友会総務本部長 図書選択委員 密教文化研究所兼任研究所員	
平成16年度 (2004年)	自己点検・評価検討委員会 FD問題検討会議 図書選択委員 大学院委員会	
平成17年度 (2005年)	自己点検・評価検討委員会 FD問題検討会議 図書選択委員 大学院委員会 大学生協理事長 学生募集対策委員会委員	
平成18年度	スピリチュアルケア学科主任 学生募集対策委員会 学報編集担当	

(2006年)	教務委員会 図書選択委員 大学生協理事長
	自己点検・評価検討委員会 GP対策委員会 COE事務責任者
	F D 問題検討会議
平成19年度	スピリチュアルケア学科主任 教務委員会 図書選択委員会
(2007年)	大学院委員会 大学生協監事 入学試験委員会
	科目等履修生選考会議 カリキュラム検討委員会
	G P 課程本部
平成20年度	学生部協議会 大学院委員会 コンソーシアム和歌山担当
(2008年)	
平成21年度	学生部協議会委員 K-GURS評議員 企画・広報委員会
(2009年)	人権研究会 低炭素プロジェクト担当
平成22年度	K-GURS評議員 企画・広報委員会 人権研究会 教務委員会
(2010年)	

所属	文学部	職名	教授	氏名	前谷 彰	大学院の授業担当の有無 (有)	
教育上の主な業績	年月日	概 要					
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ペスタロッチの直感 教育を基礎にしている		今日一般化している、いわゆる「マニュアル」に基づく教育方法を探らず、あくまでも学生個々の個性や心的状況の種々相を尊重する教育法によっている。					
2. 作成した教科書、 教材、参考書 ①『サンスクリット・サブ グラマーテキスト』 ②『仏教概要』 ③『仏教要論Ⅱ』	①1994年～ (平成6年～) ②1999年～ (平成11年～) ③2008年～ (平成20年～)	①サンスクリットや講読演習の授業時に、学生により分かり易く記述・整理した自製の文法補助テキストを用いている。 (学内のみで、55ページにわたるコピー版テキスト) ②仏教講義のテキストとして、自製の概要書を作成し、コピーして配付している。 ③通信制大学院における初期仏教思想をまとめた教科書					
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等	1. 2008. 4～ (平成20年4月～)	泉州教育再生会議の特別顧問として、家庭及び子供の教育について、いかに「すりこみ」作業が大切であるかの講演や授業を行っている。					
4. その他教育活動上 特記すべき事項 ①補習授業 ②出 講	1996年～ (平成8年～) 1997～ (平成9年～)	語学実習に関する授業は、正規授業以外に(必ず)放課後2時間程度を自主補習授業にあてている。 専修学院(仏教概要担当)					